

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150 円
昭和 54 年 8 月 1 日第三種郵便物承認

第177号



名はミハル、ひょんな事から店で使う事になった。

遅刻、欠勤なんでもありの制御不能、でも元気いっぱい、で憎めない小娘。

ある日

グアテマラ在住 飲食店経営 辻 秀樹

村の市場が移転した。しかしアクセスが悪く、売り手たちの多くが露天商として旧市場のあった場所に居残った。ところが役場はこれが面白くない。先日、彼等を排除するため警官隊が出動し、催涙ガスをぶちまけ、怪我人まで出る衝突となってしまった。景気の落ちるこの時期、毎年起きるデモやいさかいは身動きの取れなくなった者達のガス抜きなのかもしれない。

宿をやっていた頃に転がり込んできた家出少女のドテチンがカナダへ出稼ぎに行ったのだけれど、思った様に稼げず文句タラタラで帰ってきた。次はアメリカに密入国するのだと息巻いている。「ウチで働け、銀行で働くらいの給料は出してやるから」となだめるのだけれど、この国から出たいと言う。あの消え入りそうだった少女はもう居ない。たくましくなったものだ。

(次ページへ)

ラーメン屋でバイトしているミハルは16歳、理解不能のかわいらしい怪獣。何を言っているのかわからない、聞き返せば「もういい」とプンプンしている。まるで孫の様な小娘の一挙手一投足はいつも輝いている。井の中の彼女は、この村がいい、ずっとここで暮らしたいと言う。きっと彼女の見上げる小さな丸い空は真つ青なのだろう。

果たして、自分はこれからどうしたいのだろう。還暦を迎えた自分には市場の売子の様に固まってしまうのが妥当ではあるのだけれど、ドテチンの様に足掻いて、浮かぶ瀬に身を任せるのも苦労はあるが楽しそうだ、残念なことに多くを知ってしまった今からではミハルの様には輝けまい。そんなことを考えながら店に立つ。3年前の開業時には夢であった満席即完売が日常となり、つまらない事に思いが向いてしまふ。観光客といつもの会話をしながらふと思いつけた自分に呆れた。まったくイヤだねえ。



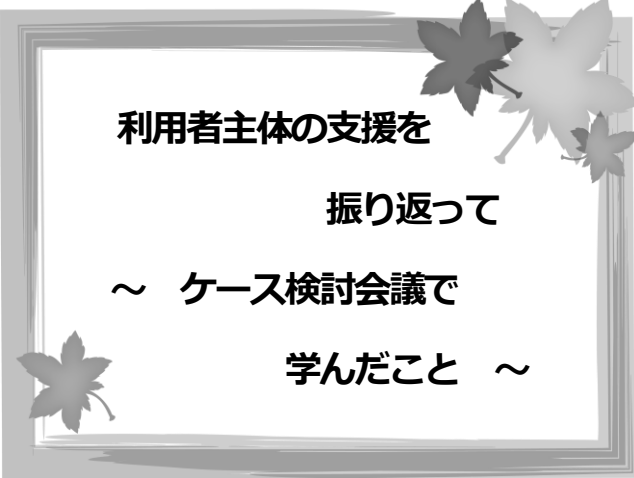
名はマリセラ、あだ名はドテチン。
犬のタチと仲良し。優しい心根と
たくましさを備えた若者。

雑記 ごまめの歯ざしり

ワイルドヒップデイルーフアーム

三重県いなべ市へ移住して12年。「食卓をそろえる」をテーマにこれまで野菜を軸に通年季節のものを100種類くらい栽培、収穫して来ましたが、ここ数年は栽培経験の蓄積から生産もある程度安定してきていて、少し野菜栽培向上への意欲が下がって来ています。そこで登場したのがお米！3年前ぐらいから中うち八へんと言う、光合成細菌の活躍によって、無肥料でもちゃんと育つ米栽培にはまりました。野菜と違ってお米は作業の集約、機械化がされておりしかも目に見えない田んぼの中の菌たちがうごめいて米を育てるということなんともミラクルな栽培方法との出会いで一気に熱が米へと向かいました。

でもまだ何か物足らないと感じる僕にとって今1番のワクワクは山へ入ること。このいなべに広がる広大な山林。その多くは昭和の時代にスギヒノキが植林されて以降ちゃんと管理されていないのがほとんどです。この活用されていないいなべの無限のフィールドで何かできないか？と思いつくのが山地酪農。野菜に米に麦に、奥さんがパンを焼き、鶏が卵を産み。次は何が作れる？となると、広大な山を拓いて草をはやし、牛を放って乳が搾れたら。そんな楽しいことないです。てことで最近山へ行く機会をぼちぼち伺いながら妄想してるのですが、先走って名前だけ考えちゃいました！それがワイルドヒップデイルーフアーム。僕が住むのが下野尻。いつか八風農園のライオンナップに乳製品が加わる日が来る日を夢見て！気長にご期待ください！



利用者主体の支援を 振り返って ～ ケース検討会議で 学んだこと ～

■ 相談支援 職員 石原 友子 ■

現在の安永さんは、ご自身の日常生活の活動を自分で組み立てて生活をされています。多くのスタッフとの関係を楽しまれています。事業者間でも情報交換をしながら、安永さんの意思や希望にそった支援で安永さんらしく毎日を過ごされています。

ケース検討会議に参加して、安永さんの今までの生い立ちを振り返ることができました。「麻里の幼少期」では、実に素直にまっすぐに少しユーモアも交えながらご自身のことを記されていました。

今年一月、担当職員の退職をきっかけに、心身ともにしんどくなった安永さん。辛い思いをいろいろなスタッフに話してこられました。安永さんも参加して会議もしました。

お医者さんにも頼りました。ケース会議に参加した職員が感じている安永さん像は「ポジティブ」「素直」「感情豊か」「自分のことを知っている。」など前向きな言葉が多く、それは安永さんに対して職員自身もプラス思考で支援ができていることを表しているのだと思います。体力的にも精神的にも辛い時間が続きましたが、少しずつ明るさを取り戻されています。

それは「暮らしの場」で培われた経験もあつてのことだと思います。同じような障害のあるメンバー同士が互いに共通の経験を語り、情報を交換し、励ましあい、目標達成に向けて、今直面している問題解決に役立っています。同じ悩みを共感でき、心が和み、次へ向かう励みとなり、自分の人生や生活を

ケース検討会議は本人中心の支援を職員間で共有し、支援方針を検討する場です。9月20日の会議では多くの職員が参加し、安永さんを取り上げました。今回記事するにあたり、ありのままの自分を読者の方に知ってほしいという気持ちの現場です。

自分で決めていくことができます。

廣瀬先生がお話されていたように「人生の設計図」を作り、文章化して整理すると、さらに彩り豊かな毎日をエンジョイできるのではないだろうか。人生を四季に例えられた廣瀬先生は、安永さんのしんどさを共有すること、本人の気持ちを丁寧に聞き取り、安永さん自身が本音をわかるようにすることの大切さを教えてくださいました。青春を謳歌した夏は過ぎ、秋の季節の中にいる安永さんが、いろいろな季節を生きる人たちと一緒に自分の人生を豊かに過ごして実りの秋を楽しめるよう応援しています。



■ 通所部 VOLLO職員 戸谷 夏実 ■

初めて安永さんの支援に入らせてもらった時に、「私の書いた文章を読んでほしい」「小さい頃のアルバムと一緒に見ない？」と、積極的に話のきっかけを作ってくれたおかげで、自然に安永さんとのコミュニケーションを楽しむことができたのを覚えています。そんな安永さんの第一印象は、明るく元気でポジティブ。言語障害があっても、自分の言葉を伝える方法を持っていて、いろいろなヘルパーさんと一緒に自立生活を作り上げていく姿に、「障害があるのにすごいな」ではなく、安永さんに対して、純粋に人として尊敬の念を抱きました。

そんな安永さんが今年に入ってから、信頼していた前担当者の退職や、他の職員の休職

が続いたことで、心身のバランスを崩してしまいました。退職、休職された職員への気持ちを抑えられず、「どうしたらいいのかわからない」「VOLLOに来るのがしんどい。週に1度休みたい」と、どんどん後ろ向きな気持ちになっていました。そんな安永さんの姿を心配に思いながらも、「休職している職員が大変なことは、安永さんならわかるよね」という前提で支援を行い、その職員を心配に思い、連絡を取りたいという安永さんにも、そう思った理由も聞かず、「それはできないよ」と、否定的な言葉を投げかけてしまいました。このままではいけないと思い、周りの職員はどう支援しているのか見た時に、安永さんと話をしていた職員が、「それが安永さんの気持ちなんだね。なんでそう思ったの？」

と、安永さんの言葉を受け入れて、どうしてそのような言葉が出たのかを深掘りして、安永さんの本当の気持ちを探っていました。その姿に、利用者主体の支援の本質はここにあると感じ、私も早速安永さんへの支援に取り入れてみました。そうすると、安永さんの言葉や行動の一つ一つにはちゃんと理由があり、「本当はこう伝えなかった」「あんな言い方がしたいわけじゃなかったんだ」と、落ちていて自分の気持ちを伝えてくれるようになりました。

今回のケース検討会議で、日々の支援を行っていくためには、今困っていることだけではなく、成育歴や今までのケースを振り返ることが、今後の支援の手がかりとなることを改めて実感しました。

これからは、仲間とのコミュニケーションを楽しみながら、仲間について知ることを大切にしていきます。その次に、仲間の言葉や行動一つ一つに目を向けて、「なんでもう言ったのかな」「このような行動をしたのはなぜだろう」と考えて、それを仲間に伝えられる支援者になりたいです。

安永さんによる今回のケース検討会議を振り返って聞いたこと

- ① 安永さんが1番不安だったことは何ですか？
- 安永さん…休職していた職員が辞めてしまっんじゃないか。
- ② ケース検討会議についてどう思ったか？
- 安永さん…私のことをよく見てくれるな。私の表情をよく見てくれている。安永さんが職員に求めること
- ③ 安永さん…私の話を、時間をかけてゆっくりに聞いてほしい。



通所での安永さんと戸谷さん



自宅でヘルパーさんと
過ごす安永さん

旅から読書

平和について考えた

生活支援部 職員 若林 祥子

韓国を旅行し、高い建物も多く交通も発達しており車の数も多く現代的なものが多い中、景福宮など昔の建物が広い範囲で残っており面白いところだと感じました。

市バスは車いすやベビーカーが乗りこめるよう、座席が少ない広いスペースのある車両を見かけました。バリアフリーが進んでいるように見える中、足や手のない方が地下鉄の階段に座り込んでいたり、人通りの多い道で台車のようなものに腹ばいになって乗ってお金を恵んでもらっていたりする様子を見かけました。この人たちはどうやって、ど

こで生活しているのかと、日本人の私には不思議な光景でした。韓国と北朝鮮の朝鮮戦争は休戦中ではありますが、いつ戦争が再開されるか分かりません。現在でも若い韓国籍の男性たちは兵役につくことが義務になっています。

さまざまな差別問題に関心を持つ韓国の女性学者が書いた『差別はたいてい悪意のない人がする』という本を読みました。作者は、ヘイト表現に関するシンポジウムで、討論者として参加し、自分のことを表現する言葉として「決定障害」と言った時、参加者から「どうして決定障害という言葉を使ったのか？」と指摘されました。著者は『障害』という言葉を自分自身がどのように使っていたか意識していなかったことに気が付きます。でも何が問題なのかを理解するために、障害者の人権運動をしている活動家に話を聞くことから始まっています。

韓国も日本も、どちらも性差別が存在すると考えられており、韓国の所得格差（女性の平均月収は、男性の65%）があり、国家公務員に女性が占める割合も20%に及ばない状況等、韓国も日本と似ていることから両国で売られています。

この本の中で私が最も印象に残った部分は、1964年に人種、肌の色、宗教、出身国などを理由とする差別や分離を禁止する公民権法が制定される以前のアメリカのことです。



1867年アメリカのある裁判で人種隔離に関して「神は黒人と白人を異なる姿に

造っており、私たちが人種的混交に不快な感情を持つのは当然であるから、白人と黒人を分離するのは当然のことである。分離するかというって、両者に優劣をつけるものではない。異なる人種間に憎しみが存在するのなら、紛争を避けて平和を守るためには両人種を分離してもいい」と現代の私たちからすると驚くような判決が出ました。公民権法ができるまで、黒人と白人を分離する政策は間違っているという考えは当たり前で、さらに人種隔離政策を強めたことでしょう。

1896年のある裁判では「人種隔離政策は有色人種の劣等を意味する政策ではないし、社会的偏見や不平等があるとしても立法だけでこの問題を解決することはできない。両人種の社会的平等は、お互いのメリットに對する相互理解と個人の自発的な合意によ

る自然の親和性の結果でなければならない」という判決が出ました。

それまで黒人と白人を分離することが間違いでないと思っている人々が、差別を受けている人々から訴えがあつたとき、果たして個人で自発的な合意ができるのでしょうか。法律が持つ力は大きいものです。結局差別を認める社会は暴力的です。人々を分離することがおかしいと思う人もいたと思いますが、法律がない、差別を差別と思わない、それが当たり前の国家の中では、分離がおかしい、不平等だと訴えることが難しいことだったのかと思いました。

日本ではどうでしょうか。最近の選挙で大きく政党のバランスが変わりました。物価高対策や消費税等の減税や手当などで、一見多くの国民が共感を持てる公約が多く並んでいました。もちろん、暮らしやすい日本にしていきたい気持ちは同じですが、社会福祉分

野の生きにくさは変わっていないように感じます。生活保護費の引き下げや福祉事業の基本報酬の改定などないがしろにされてきました。障害者や高齢者、福祉のことをよく

知らず、当事者抜きに決められてしまっています。特に自分の言葉でうまく伝えられない障害者は、どうせ分からないだろう、聞いても答えられないだろうと思われています。障害者のことを是非知ろうと関心を持つて政策を考えてもらいたいです。言葉がうまく話せなくても、感情はあるし、考えているし、やりたいことも私たちと同じようにたくさんあります。それぞれの方法で伝えることもできます。無自覚な差別が暴力に繋がっている危険があることを、改めて意識しました。

10月にきょうされん全国大会に参加してきました。大会テーマの中に『戦後80年』を掲げ、特別シンポジウムでは『被爆・戦後80年 障害のある人と戦争を考える』とい

うテーマで、昨年ノーベル平和賞を受賞された日本被団協の濱住さんの興味深いお話を聞くことができました。

日本は戦後80年戦争を起こさず、原子爆弾も持っていません。世界には一万二千発の核兵器があり、四千発の核弾頭はいつでも発射される状況にあるそうです。日本被団協の皆さんは、日本だけでなく世界で自分たちと同じような悲劇を繰り返さないために活動されたことが評価されたのです。

そして、このシンポジストの中の一人で、22歳の男性の発表がありました。「平和であるためには、対話で解決をする努力を続けていかねばならないと思う。戦争にならないためには相手を尊重し、喧嘩をしても話し合いで解決することが大事。障害者も健常者も命は平等です。平和に今を過ごすためには戦争のことを時々思い出し考えていくことです。このことが人から人へとつながり平和の連

鎖になると思います。」

当たり前前のことですがストレートで、私の胸に残る言葉でした。ちよつとした意見の違いや対話で解決できないから暴力や武器を持つ。差別も同じことを起こす危険があります。分かり合うことは難しく、時間がかります。しかし、男だから、女だから、障害者だから、外国人だからなど、一括りにしないように気を付けたいと思っています。

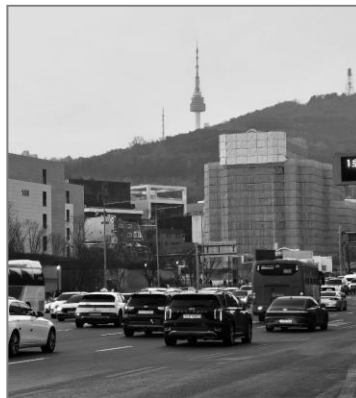
また、今の時代は周りに情報があふれていて、正しい情報も正しくない情報も、人も噂話もあります。私はそれらに左右されやすいタイプなので、あまり影響を受けすぎないようにしないといけません。特に初対面の人やまだ関わりの浅い人との関係づくりは、他人からの情報を参考にしますが、できるだけ私の直感を大切にしたいと思っています。情報だけで相手のことを判断するのは、私が同じようにされるのも嫌ですし、相手のことをよ

く知らずに決めつけてしまうのはもったいないと思います。

悪い事も意見の合わない相手の考えも聞いてみて、私とは違う考え方を知り、私自身の世界を広げていきたいと思っています。



韓国の屋台



南山タワー

【障害のあるわが子の進路先を考える ～日中活動の場を選ぶ指針とは～】 セミナーを行いました

2025年9月3日にイーブルなごやにて、名古屋市役所障害企画課課長の新美貴久氏を講師としてお招きし、セミナーを行いました。

当日は障害を持つお子さんの親御さん、学校関係者、事業所の方など43名の参加者が集まり、講師のお話の後の質疑応答の時間には参加者から多くの質問をいただき活気ある対話になりました。

また、参加団体の6団体から事業所紹介があり、各事業所の特色を聞くことができました。学校卒業後の進路について不安のある親御さんの情報収集の場になりました。



名古屋市役所企画課 新美課長より
障害福祉サービスの説明がありました



参加団体の事業所紹介をしました
参加団体：名北福祉会 エゼル福祉会
やまびこ福祉会 あいうえおハウス
みなと福祉会 名古屋キリスト教社会館
(順不同)



会場後方に各法人のブースがあり、個別の質問や施設見学の受付をしました

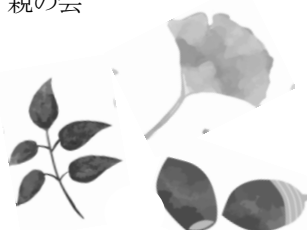
《活動状況》

9 月

- 1 日 社協 障害福祉研修 (犬飼)
- 3 日 社会福祉法人ネットワーク主催
障害のあるわが子の進路を考えるセミナー
講師 新美貴久氏 (名古屋市障害企画課課長)
- 3 日 動作法研修 愛知淑徳大学 二宮先生
- 4 日 NHK名古屋放送局 法人本部へ取材
“福祉避難所・災害弱者の命を守る”
- 6 日 音楽サロン開催
(フラメンコギター 山田美治)
- 7 日 名古屋市総合防災訓練
西区自立支援連絡協議会防災部会 (寺澤)
- 8 日 連絡調整会議
- 11 日 W I L L 防災訓練
- 12 日 管理職養成学校 (溝口)
- 17 日 社協 ファシリテーション研修 (久野)
- 18 日 財務管理研修 (溝口・寺澤)
- 20 日 ケースワーク会議
- 22 日 動作法研修 愛知淑徳大学 二宮先生
- 23 日 祝日開所
- 25 日 親の会
- 26 日 名古屋生活支援事業者連絡会会議 (渥美)
- 28 日 W I L L ふれあいフェス菓子販売
- 29 日 会報発送
- 30 日 会報会議

10 月

- 3 日 動作法研修 愛知淑徳大学 二宮先生
- 5 日 音楽サロン開催
(ヴァイオリン&ピアノ
青 錦 & 木森菜見子)
- 6 日 暮らしの場世話人会 (榊原)
- 8 日 連絡調整会議
- 12 日 W I L L 栄マルシェ菓子販売
- 13 日 祝日開所
- 14. 22 日 VOLO日帰り旅行 (木下大サーカス)
- 18 日 管理職養成学校 (溝口)
財務管理研修 (溝口・寺澤)
- 17. 18 日 きょうされん全国大会滋賀
(若林・曾我)
- 20 日 VOLO日帰り旅行 (ローズガーデン)
- 21 日 VOLO日帰り旅行 (ホテルランチ)
- 20 日 クリスマス会会議
- 27 日 動作法研修 愛知淑徳大学 二宮先生
- 29 日 インフルエンザ予防接種
- 29 日 同朋大学訪問 (溝口)
- 31 日 W I L L 日帰り旅行
(アンパンマンミュージアム・
なばなの里・ナガシマスパーランド)
- 31 日 親の会

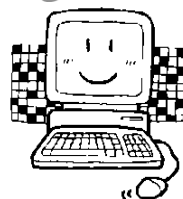


事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

9月～10月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

柳野友美 廣瀬治代

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

高嶋一臣 石原優樹 塩澤しのか

山田智子 鈴木丈登 東原光江

税理士事務所HERITAGE

宮川優子

(VOLO)

久保昂太郎 鈴木丈登

塩澤しのか 高嶋一臣

松本佑樹・治樹

長野資子 縄田高志

(WILL)

安達俊太 榊原芳典

★ 会報発送ボランティア

吉田嘉子 丹羽正子

佐藤美紀子

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 辻本道子 寺西 剛

石原まち 鈴木千春 田村淳仁

東原光江 山本 武 北出麻衣

佐藤晴紀 桐澤 潮 我妻勇男

小林愛恵 重松歩月 早川あい

村瀬万帆 白木佑叡 杉井志織

西川友惟 小西涼真 岩鼻海斗

伊藤葉月 杉浦小椰 牛田楓乃

大塚幸子 坂木夢菜 大倉晴菜

井伊裕美 原田浩平 内山俊吾

鈴木心透 笠井翔太 大谷和也

松田樹里 榊原陽樹

玉那覇詠洸 榊原つぐみ 青島優津樹

酒井まみ子 長谷川美緒 平井千鶴子



通所部 WILL・VOLO 秋の日帰り旅行



なばなの里 ベコニアガーデン



名古屋アンパンマンこどもミュージアム



木下大サーカス



ぎふワールド・ローズガーデン

【 銀行口座 】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【 郵便振替口座 】 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

U R L <https://ezeru.or.jp/>

E-mail convini@ezeru.or.jp



コンビニの会

理 事 宮川 優子